

すこやか

令和7年度第1号

可児市家庭教育学級通信

可児市では毎年、「尾木ママの子育て相談会」と題して、尾木ママに直接子育ての悩みを相談する催しを開催しています。今年度は、6月27日（金）に開催し、「保護者に知ってもらいたい教育の話」をテーマとした、前半は講演会、後半は相談会を行いました。日々の子育ては迷ったり悩んだり繰り返す。尾木ママの最新の教育事情の講話や、質問者の悩みをみなさんと共有して、ぜひ明日からの子育てに役立ててみてください。

尾木ママの子育て相談会

教育評論家 尾木直樹氏（尾木ママ）は可児市いじめ防止専門委員会の特別顧問に就任され14年目になりました。この間、毎年「学校訪問」「講演会」「子育て相談会」等を実施してきました。オープンな相談形式は可児市だけと、その先進性を評価されています。また、不登校の子ども達の居場所である「スマイリングルーム」では、子どもの特性に合わせた設備が充実していることや、小中学校での悩み相談会において子ども達が自分の悩みをオープンに話している姿についても高く評価されました。



【尾木ママ講演会の要点】

<現代の子どもたちが直面する「生きづらい時代について」>

児童・生徒の自殺者数が増加している。大人の自殺者数が減少傾向になる一方で、令和6年中の小中高校生の自殺者数は過去最多の529人に達し、毎週10人の子どもが亡くなっている計算になる。この現状に危機感を抱いている。特にこれまで男子が多かった自殺者のうち、女子の割合が増加している。心の病で休職する教員が令和5年度には過去最多7,119人に達している点も学校現場の危機としてとらえている。名古屋と横浜の教員による盗撮といった事件の再発を防止するためには、「包括的性教育」が不可欠である。現行の学習指導要領では、性教育に「歯止め」がかかっているため、教員が積極的に教えることが難しい現状は問題であり、規制緩和が必要である。

<子どもたちを取り巻く環境について>

地球温暖化が進み自然環境が変化している。異常気象や四季の消失（二極化）など、子ども達が不安定な環境の中で生きている現状である。紛争の日常化と先行き不透明な「VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）」の時代を生きている。1年生からタブレットを持つようになったSNS時代において、日本のSNS規制は他国に比べて緩い。

<思春期脳の発達と子どもへの理解について>

思春期に子どもがヒステリックになったり反抗したりするのは、感情のコントロールを司る前頭前皮質が未発達な「脳の問題」である。この理解が、親が子どもに寄り添う上で重要である。

<子どもの権利について>

「自然環境への発言権」は、国連が提唱する子どもの新たな権利である。「権利の前に義務」という旧来の考え方を否定し、権利の保障こそが子の成長を促す。政府が推進する「こどもまんなか社会」の考え方を実現していきたい。そのためにも情報へのアクセス能力が高い現代の子ども達を社会の中心に捉えることが大切である。

<最後に>

可見市は、他の地域に先駆けて子どもが安心して過ごせる「解放区」のような場所を作っている。親は子どもの声に耳を傾け、共に歩むことが重要である。

【子育ての質問についての相談会の要点】

| | |
|----|--|
| Q1 | 5歳と3歳の男の子の兄弟喧嘩に疲弊している。どのような心持ちで接すればよいか？ |
| A. | 3歳児は体内記憶が失われ自己主張が芽生える時期、5歳児はプライドと競争心が育つ時期であり、喧嘩は正常な成長の証。めげずに体力勝負で頑張ってもらいたい。 |
| Q2 | 子どもが嘘をつき始めたらどう対処すればよいか。 |
| A. | 嘘がつけるということは、子どもの発達した能力と知恵の証である。最も重要なのは、親子の信頼関係を気付き、子どもが安心して親に話せる環境を作ること。 |
| Q3 | 生成AIとどう向き合い、使い方やメリット・デメリットをどう考えればよいか？ |
| A. | 紙媒体での学習の方が、脳が活性し、記憶が定着しやすいことが科学的に明らかになっている（スイスの事例）。学校任せにせず、外部の団体なども活用しデジタルシチズンシップ（デジタル時代の市民としてのモラルや付き合い方）の視点を子どもに与えることが重要。 |
| Q4 | 美濃市の全小学校で低学年の通知表が廃止されることについてどう考えるか。 |
| A. | 全面的に賛成。通知表の有無ではなく、子どもの学習や生活面での特徴、成長、課題を保護者は子ども自身にどう伝えていくかが重要。 |
| Q5 | オンラインで知らない人とつながるゲームやSNSに不安がある。スマホを持たせる場合どうしたらよいか。 |
| A. | 最も重要なことは、親子の信頼関係を築くこと。困った時に、子どもが安心して親に話せるように伝えておく。親が対応できない場合は、専門家や相談機関に頼ることも大切。 |
| Q6 | 給食は食べるが、家で野菜を食べない。親としてどう考えればよいか。 |
| A. | 給食が美味しいことは事実。単純な比較は難しい。残す理由を子どもに尋ねてみるのが大事。給食センターの見学なども参考にできる。 |
| Q7 | 息子に親しい友人がおらず、学校では一人で過ごすことが多い。自分自身の人付き合いが苦手だったことが影響しているのではないか。今からできることはあるか。 |
| A. | 無理に変えようとするのではなく、「こういう個性を持った子なんだ」と丸ごと受け入れることで親の気持ちも楽になり、子どもも安心できる。 |

相談会の様子が、ケーブルテレビ可見「いきマイ+（プラス）」で放送されます。毎月第2土曜日の放送予定です。7：00/12：00/17：00/19：00/23：30の放送です。（場合によって変更することがあります。）

可見市 子育て支援課 子育て応援係 山口 亜衣
電話：62-1111（内線5545）FAX：66-1005
E-mail:kosodate@city.kani.lg.jp